

愛知教育大学大学院

設置の趣旨等を記載した書類

参 考 資 料

資料 1	愛知教育大学 大学院改革プラン全体イメージ	1
資料 2	修士課程のカリキュラム構成	2
資料 3	コース別修了要件単位数	3
資料 4	履修モデル	4
資料 5	学部の教養科目	6
資料 6	学部と大学院のつながり	8

愛知教育大学 大学院改革プラン全体イメージ

◎ 後期3年博士課程

共同教科開発学 専攻 (静岡大学との共同課程)

連続性・発展性

A: 専門職学位課程 (教職大学院)

[120名]

教育実践高度化 専攻

<p>学校マネジメントコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクーリングリーダー育成系 ・ミドルリーダー育成系 	<p>【目的】 学校経営力・カリキュラムマネジメント力に長けたリーダーの育成</p> <p>【対象】 ヘテラン現職教員(約20年以上) 中堅現職教員(約10年以上, 附属学校教員含む)</p>
<p>教科指導重点コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語・社会科学系 ・理数・自然科学系 ・造形・創造科学系 	<p>【目的】 教科の特性を生かした教材・授業開発力の育成</p> <p>【対象】 若手現職教員(約5~10年, 附属学校教員含む) 学部直進者, 社会人</p>
<p>児童生徒発達支援コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導・教育相談系 ・幼児教育実践系 ・養護教育実践系 ・特別支援教育実践系 	<p>【目的】 発達段階に即した問題解決力の育成</p> <p>【対象】 若手現職教員(約5~10年, 附属学校教員含む) 学部直進者, 社会人</p>
<p>地域・教育課題解決コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒支援系 ・ICT活用・科学ものづくり推進系 	<p>【目的】 地域との連携協働による教育諸課題への対応力の育成</p> <p>【対象】 若手現職教員(約5~10年, 附属学校教員含む) 学部直進者, 社会人</p>

6年一貫教員養成高度化プログラム

教育学研究科

教育学部

B: 修士課程

[30名]

教育支援高度化 専攻

<p>臨床心理学コース</p>	<p>【目的】 「チームとしての学校」を地域でリードする高度な心理専門職の育成</p> <p>【対象】 学部直進者, 社会人</p>
<p>日本型教育グローバルコース</p>	<p>【目的】 日本型教育システムを自国教育に拡充する教育者・研究者の育成</p> <p>【対象】 外国人留学生</p>

相互履修

◎ 教員養成課程

一貫性・系統性

◎ 教育支援専門職養成課程

修士課程のカリキュラム構成

臨床心理学コース

日本型教育グローバルコース

発展

修士

論文

特別研究 I・II：先行研究レビューと実践からの学びの総括 (4単位)

公認心理師資格
関連科目群

- ・臨床心理面接特論
- ・家族心理学特論
- ・精神医学特論
- ・学校臨床心理学特論 等

実践科目

- ・臨床心理実習, 心理実践実習 等

(16単位)

教科探究

- ・ICTを活用した教材の開発と
グローバル化
- ・日本における教科の内容と指導法
- ・日本型教材の開発と授業デザイン 等

教育国際比較

- ・日本型教育の理解のための日本語
人間発達の国際比較
- ・教育制度・カリキュラム
の国際比較 等

実践科目

- ・日本型教育実践研究

(14単位)

(教職大学院科目も選択可能で修了要件単位数に含む)

自由科目

臨床心理学：
4単位
日本型教育が
グローバル：
6単位

(選択)

- ・発達心理学特論
- ・多職種連携演習

(必修)

- ・学校におけるICT活用の方法
- ・教育における統計分析の方法
- 教育・子ども支援高度化のための理論と実践
地域協働と学校間連携

(6単位)

基盤

※修了要件：30単位（以上）

深化(実践)

コース別修了要件単位数

修士課程

コース	共通科目		コース科目		研究指導 (ゼミ科目)		自由選択科目 ※		合計
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
臨床心理学コース	必修	4	選択	16 (うち実践科目 4単位以上を 含む。)	必修	4	選択	4	30
	選択	2							
日本型教育グローバルコース	必修	4	選択	14 (うち実践科目 4単位以上を 含む。)	必修	4	選択	6	30
	選択	2							

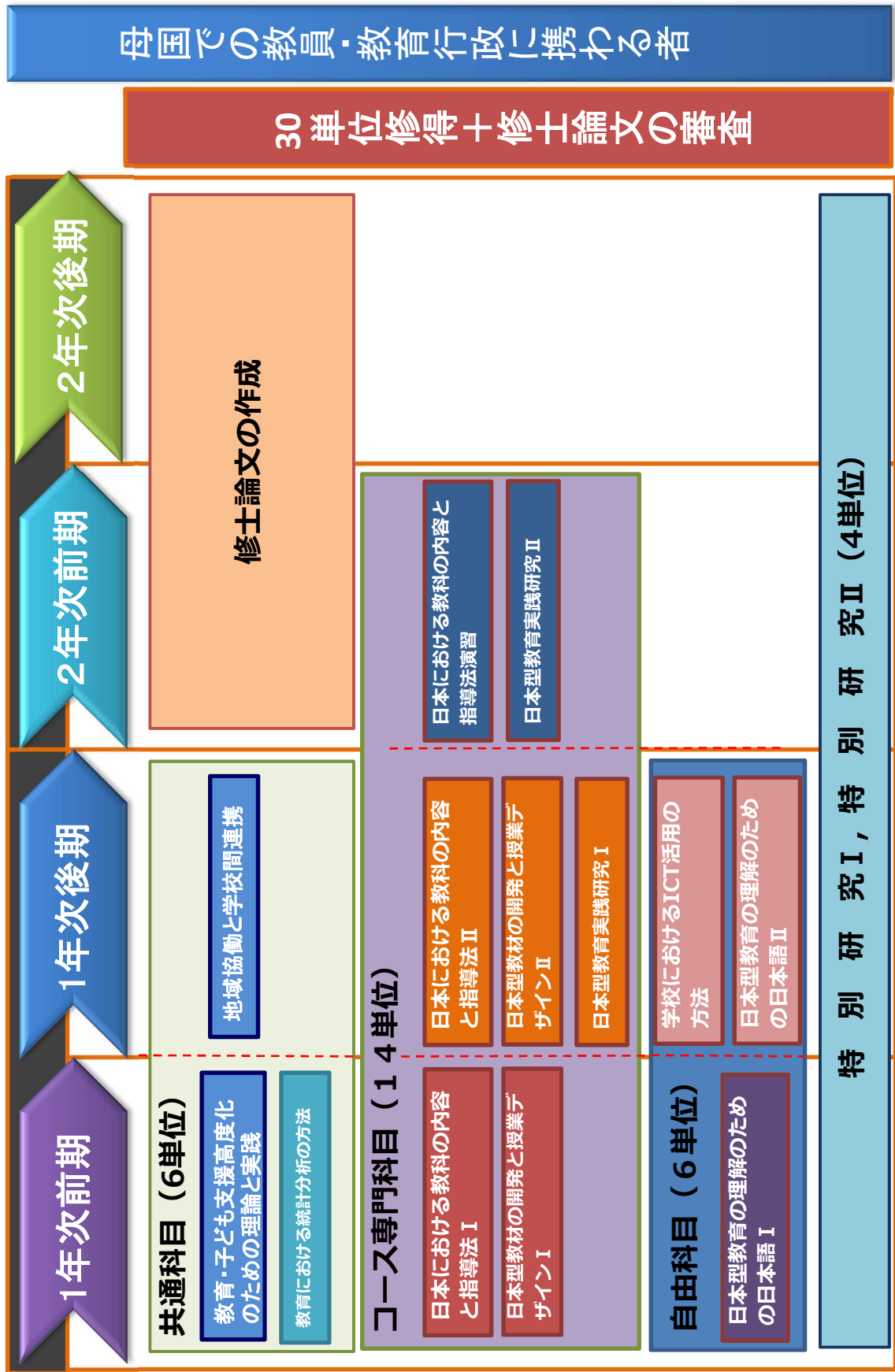
履修モデル(臨床心理学コース)

※直進学生で、臨床心理士・公認心理師の資格を取得し、スクールカウンセラーなどを目指す者



履修モデル(日本型教育グローバルコース)

※留学生で、日本の教育システム及び幅広い教科内容を身に付け、母国での活躍を目指す者



30 単位修得 + 修士論文の審査

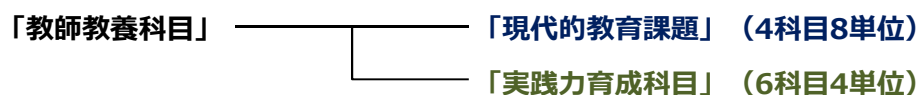
コース専門科目 (14単位)

自由科目 (6単位)

特別研究 I, 特別研究 II (4単位)

学部の教養科目

教師教養科目一覧



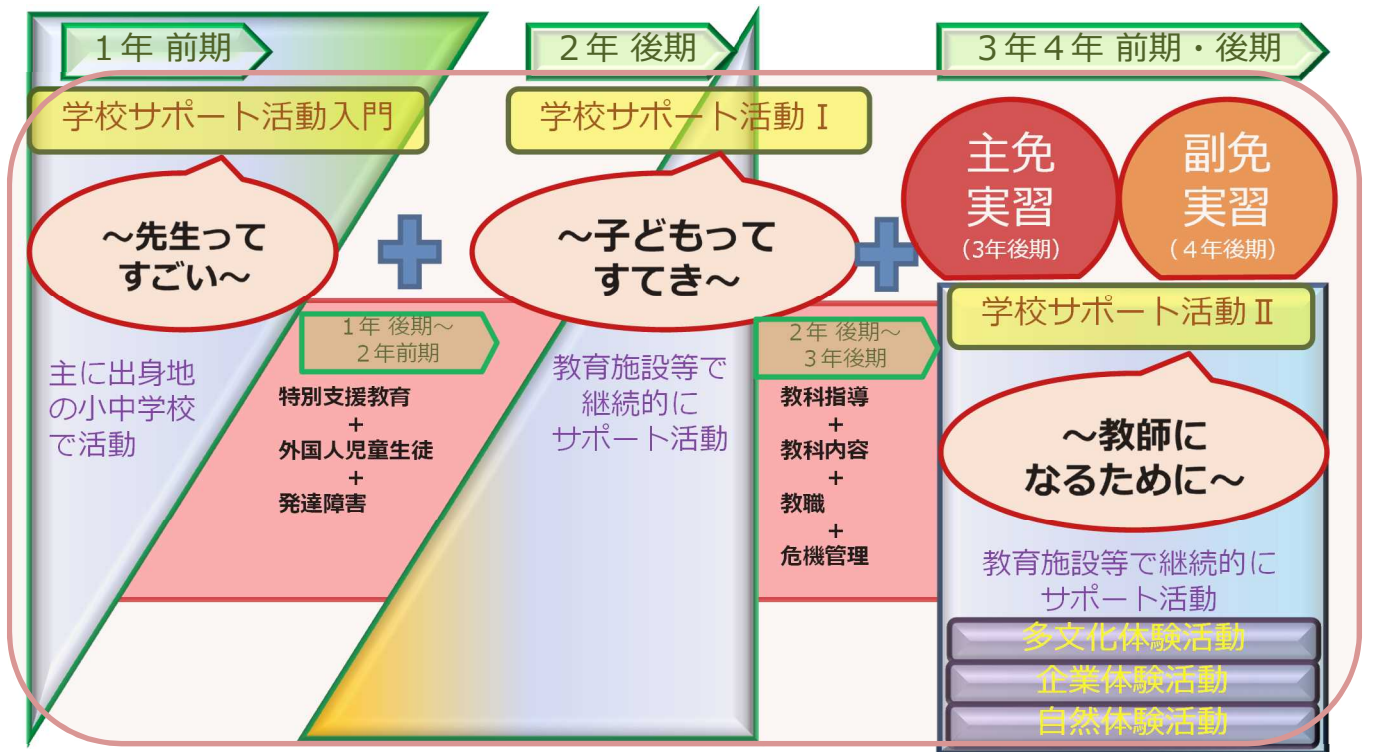
「現代的教育課題対応科目」

科目名	目的
特別支援教育基礎	広く特別支援教育への導入的な理解を図る。
発達障害のある児童生徒理解基礎	発達障害のある児童生徒の現状の理解とその対応策を学ぶ。
外国人児童生徒支援教育科目	愛知県で特に顕著な多文化化する学校現場に対応できる視野、知識と技術を学ぶ。
危機管理科目	防災・減災教育、個人情報の保護、アレルギーへの対応など学校を取り巻く安全教育を広く学ぶ。

「実践力育成科目」

科目名	目的
学校サポート活動入門	学生の母校や出身地区の小・中学校で、1週間程度の学校体験を通して、学校現場の様子の理解を図る。2018年度は、913名が履修した。
学校サポート活動Ⅰ	主に授業の補助、部活動の指導補助、土曜や放課後活動の補助などの活動を通して、子ども理解を深め、教職等への意欲を高める(13回程度)。2018年度は、955名が履修した。
学校サポート活動Ⅱ	基本的には「学校サポート活動Ⅰ」の継続として位置付け、3・4年次に実施する。Ⅰで得た経験を活かすとともに、主免実習の前後となるため、主免実習につなぐ、あるいは主免実習を活かして、学校現場での更なる子ども理解を目指す。2019年度は、約450名が履修予定である。
自然体験活動	NPOや地元企業の協力を得て、学生が子供やその保護者とともに、稲作や環境保全、ピオトープに維持管理などの体験を行う(7～9回程度)。2019年度は、約90名が履修予定である。
多文化体験活動	教員の引率の下アジアを中心とした協定校等へ出掛け、子どもの生活環境や授業の様子、文化等を体験的に学ぶ(1週間程度)。2019年度は、約190名が履修予定である。
企業体験活動	地元企業の経営者等や社員にインタビューしたり、仕事を体験したりして、経営者の心掛けていることや子供の保護者としての労働者の実態を体験的に学ぶ。2019年度は、約190名が履修予定である。

学部教師教養科目と教育実習の関係



学部と大学院のつながり

